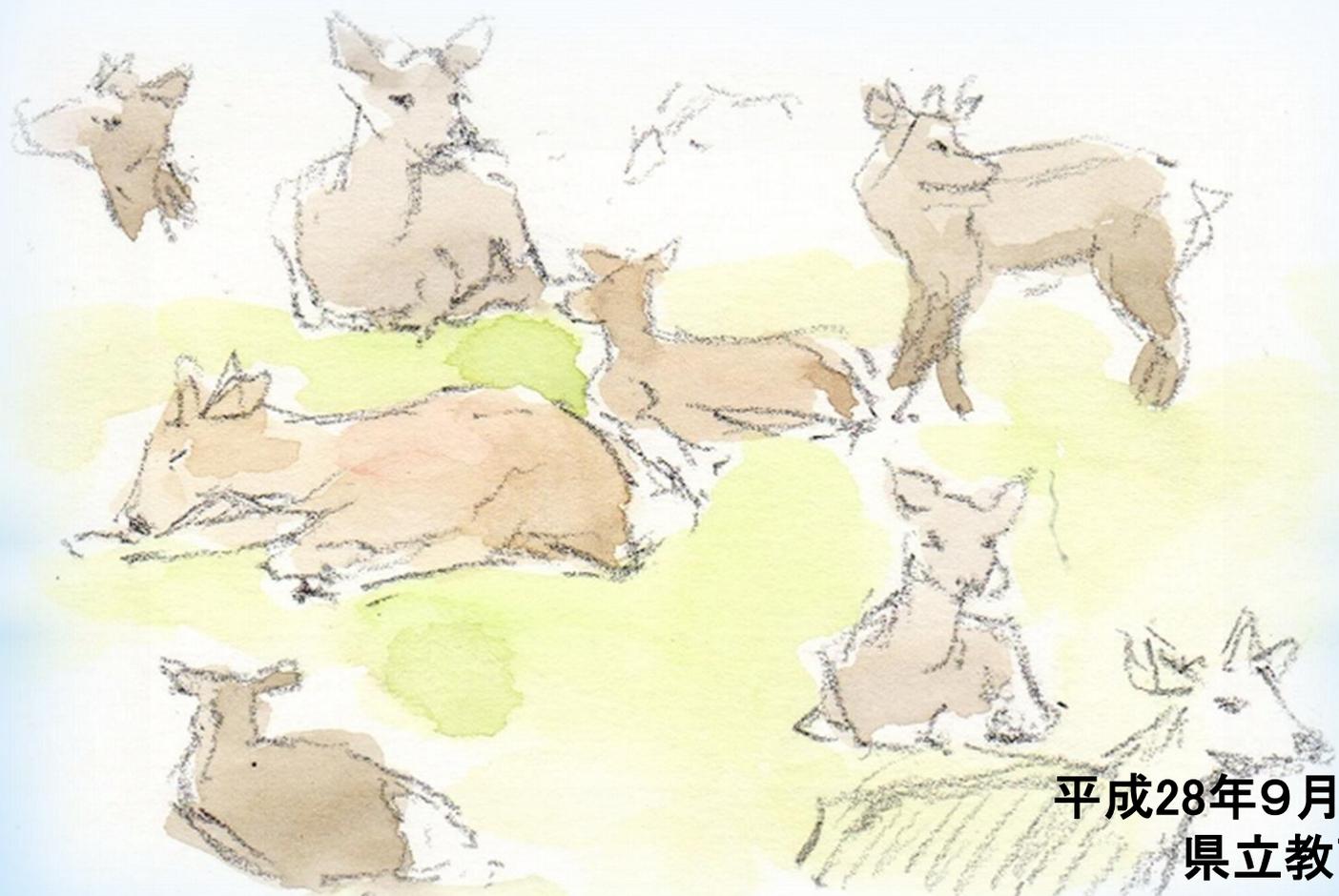


平成28年度

全国及び奈良県学力・学習状況調査の調査結果
の活用による指導改善に向けた説明会



平成28年9月23日(金)
県立教育研究所

本日の内容

- 1. 全国学力・学習状況調査について ～何が求められているのか～**
 - (1) 全国学力・学習状況調査の目的
 - (2) 全国学力・学習状況調査の調査内容
- 2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～**
 - (1) 全国学力・学習状況調査
 - ①教科に関する調査
 - ②児童生徒質問紙調査
 - (2) 奈良県学力・学習状況調査
- 3. 調査結果を生かした指導改善**

～できなかったことを、できるようにするために～
- 4. 教育委員会や先生方をお願いしたいこと**

(1) 全国学力・学習状況調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



「何ができて、何ができないのか」を把握し、「できなかったことが、できるようになる」という子どもの**学習意欲**や**学力向上**につながるものでなければならない。

(2) 全国学力・学習状況調査の調査内容

○国語A、算数・数学A → 主として
「知識」に関する問題

- ◆身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◆実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

○国語B、算数・数学B → 主として
「活用」に関する問題

- ◆知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◆様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

先生方は、実際に調査問題を解いたことがありますか？

1. 全国学力・学習状況調査について ～何が求められているのか～

- 5 水遊び広場
- 4 ピクニック広場
- 3 グリーン広場
- 2 フラワー広場
- 1 わんぱく広場

ボール遊びができて、お弁当を食べることのできる広場に行きたい。
集合場所の「案内センター」にできるだけ近いところがいいね。

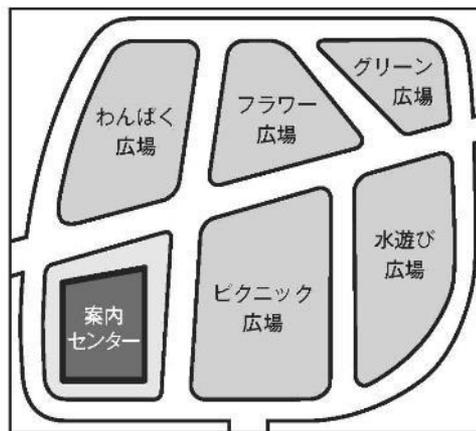
【山田さんのグループの希望】

A 問題

平成28年度全国学力・学習状況調査問題【小学校 国語A】より



【南町公園案内図】



【パンフレットの一部分】

広場	広場の説明	飲食	ボール使用
わんぱく広場	小さい子ども向けの遊び場です。小学生以上は遊べません。	○	○
フラワー広場	花畑があり、季節の花を楽しむことができます。	×	×
グリーン広場	段ボールなどですべり降りることができる芝生の斜面があります。	○	○
ピクニック広場	眺めがよく、公園の中で一番広い広場です。	○	○
水遊び広場	噴水があります。夏には、水遊びができます。	○	×

5 山田さんは、学校の遠足で「南町公園」に行くことになりました。そこで、グループで活動する広場を決めようとしています。次の【南町公園案内図】と【パンフレットの一部分】をよく読んで、【山田さんのグループの希望】に最も合う広場を、あとの1から5までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

A問題では、単に漢字が読めたり、書けたりすることや計算ができるといった知識や技能の量を測るだけでなく、**実生活での活用を想定した問題**が出題されている。

1. 全国学力・学習状況調査について ～何が求められているのか～

(前略) 将来なりたい職業について調べ、クラスの中で紹介し合うことにしました。谷口さんは、パン職人を選び、【資料1】を読みましたが、もっと詳しく知りたいと思い、【資料2】も読みました。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

B 問題

【資料1】様式について書かれた本の「パン職人の仕事」のページ

パン職人の仕事

朝5時からパン作り開始
 1. 小麦粉、砂糖、卵、バター、酵母、水などを混ぜる。
 2. 生地をこねる。
 3. 生地を丸め、成形する。
 4. 成形した生地を蒸籠に入れて蒸らす。
 5. 蒸らす時間は、蒸籠の大きさによって異なる。
 6. 蒸らす時間は、蒸籠の大きさによって異なる。
 7. 蒸らす時間は、蒸籠の大きさによって異なる。
 8. 蒸らす時間は、蒸籠の大きさによって異なる。

【資料1】

3 谷口さんは、「資料2」を読み、パン職人について調べ、クラスの中で紹介し合っていました。谷口さんは、「資料1」を読み、パン職人の仕事について調べ、クラスの中で紹介し合っていました。谷口さんは、「資料1」を読み、パン職人の仕事について調べ、クラスの中で紹介し合っていました。

パン職人の声

パン職人になったきっかけは、小学校の頃から、お父さんがパン屋で働いていたからです。お父さんがパン屋で働いているのを見て、私もパン屋で働きたいと思いました。お父さんがパン屋で働いているのを見て、私もパン屋で働きたいと思いました。

【資料2】

パン職人の仕事の大変なところ、苦労は何か。

パン職人の仕事は大変なところ、苦労は何か。

1 パンがまだ温かい状態で、お客さんに渡すのは大変です。

2 パン職人の仕事に対する考え方を教えてください。

3 パン職人の生活はどのように変わっていくのでしょうか。

4 パンには、どのような特徴があるのでしょうか。

【資料2】 をもとにしたメモの断片

【待心に残ったこと】

パンが大好きで、パンの作り方を教えてほしいです。

パンの作り方を教えてほしいです。

パンの作り方を教えてほしいです。

1 ①→②→③

2 ①→②→③→④

3 ①→②→③→④→⑤

4 ①→②→③→④→⑤→⑥

5 ①→②→③→④→⑤→⑥→⑦

谷口さんは、「資料2」を読み、パン職人の仕事について調べ、クラスの中で紹介し合っていました。谷口さんは、「資料1」を読み、パン職人の仕事について調べ、クラスの中で紹介し合っていました。

平成28年度全国学力・学習状況調査問題【小学校 国語B】より

1. 全国学力・学習状況調査について ～何が求められているのか～

B問題では、他者と協働した学習活動の中で、他者の意見などから自分に必要な情報を読み取り、それらを使って自分なりの答えを導くような問題が出題されている。

全国学力・学習状況調査は、まさに今後10～20年後、目まぐるしく変化し、見通しのもてない社会の中で生きていくことになる今の子どもたちに求められる学力を測っている。

少子高齢化

グローバル化

情報技術（IT）の革新

今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化され、子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就くという予測も。

知識を覚えることよりも、情報を使いこなす、自分の考えをもつ、適切に判断する、他者に分かりやすく表現するなどといった力が求められている。

皆さんの市町村では、子どもにこのような力が身に付くような授業改善が進んでいますか？

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

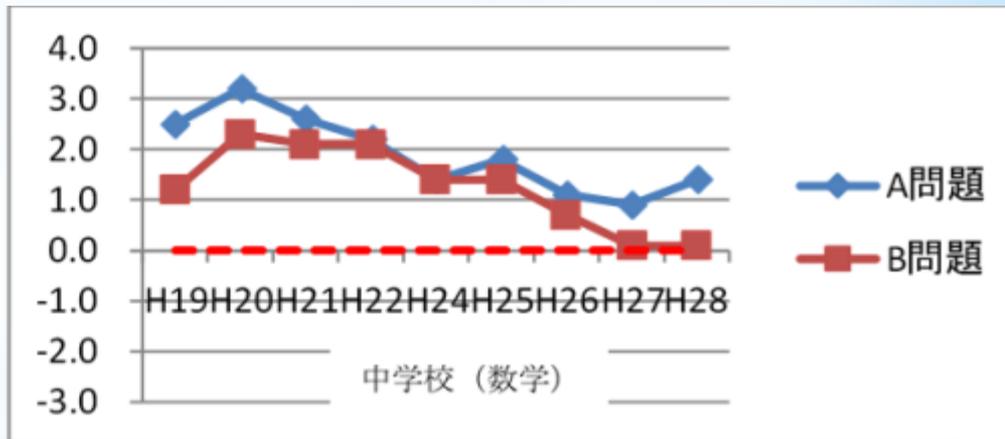
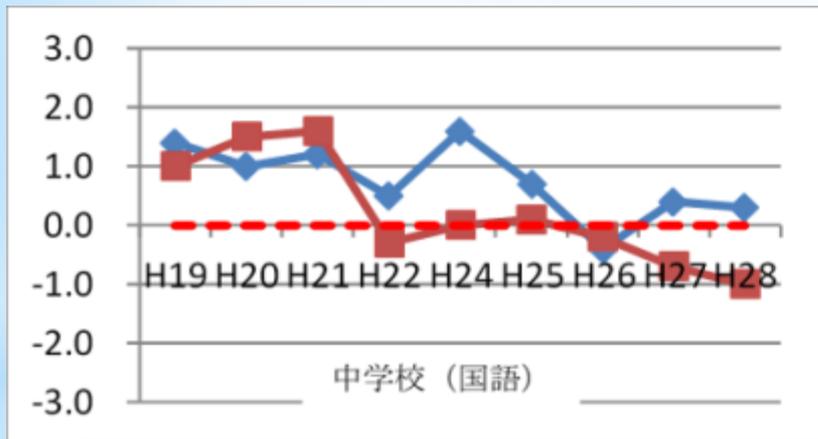
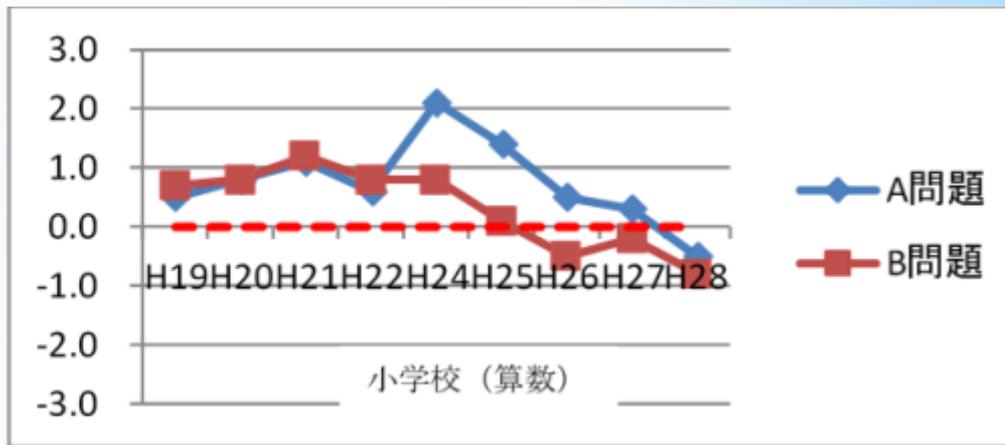
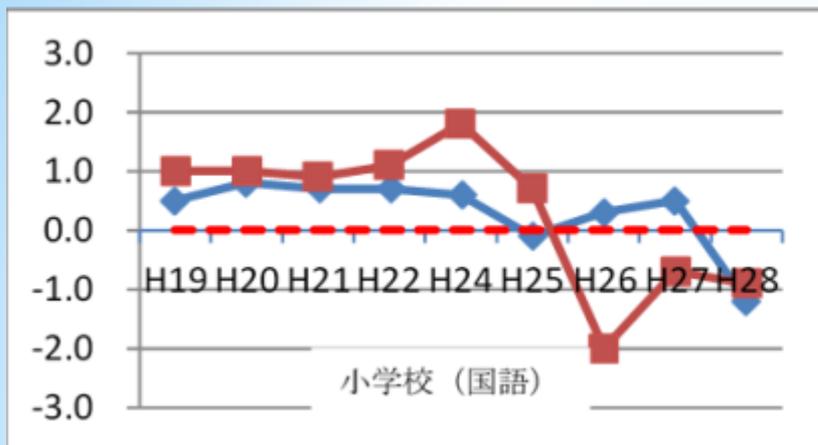
(1) 全国学力・学習状況調査 ①教科に関する調査(国語、算数・数学)

	国語 A				国語 B			
	平成28年度		平成27年度		平成28年度		平成27年度	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
小学校	10.9/15 72.9	10.8/15 71.7	9.8/14 70.0	9.9/14 70.5	5.8/10 57.8	5.7/10 56.9	5.9/9 65.4	5.8/9 64.7
中学校	25.0/33 75.6	25.0/33 75.9	25.0/33 75.8	25.2/33 76.2	6.0/9 66.5	5.9/9 65.5	5.9/9 65.8	5.9/9 65.1
	算数・数学 A				算数・数学 B			
	平成28年度		平成27年度		平成28年度		平成27年度	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
小学校	12.4/16 77.6	12.3/16 77.1	12.0/16 75.2	12.1/16 75.5	6.1/13 47.2	6.0/13 46.4	5.9/13 45.0	5.8/13 44.8
中学校	22.4/36 62.2	22.9/36 63.6	23.2/36 64.4	23.5/36 65.3	6.6/15 44.1	6.6/15 44.2	6.2/15 41.6	6.3/15 41.7

- 小学校においては、国語 A、B、算数 A、B の全ての調査において、全国平均正答率を0.5から1.2ポイント下回った。
- 中学校においては、国語 B で 1 ポイント下回った以外は、全国平均正答率を0.1から1.4ポイント上回った。

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

本県と全国の平均正答率の差の推移

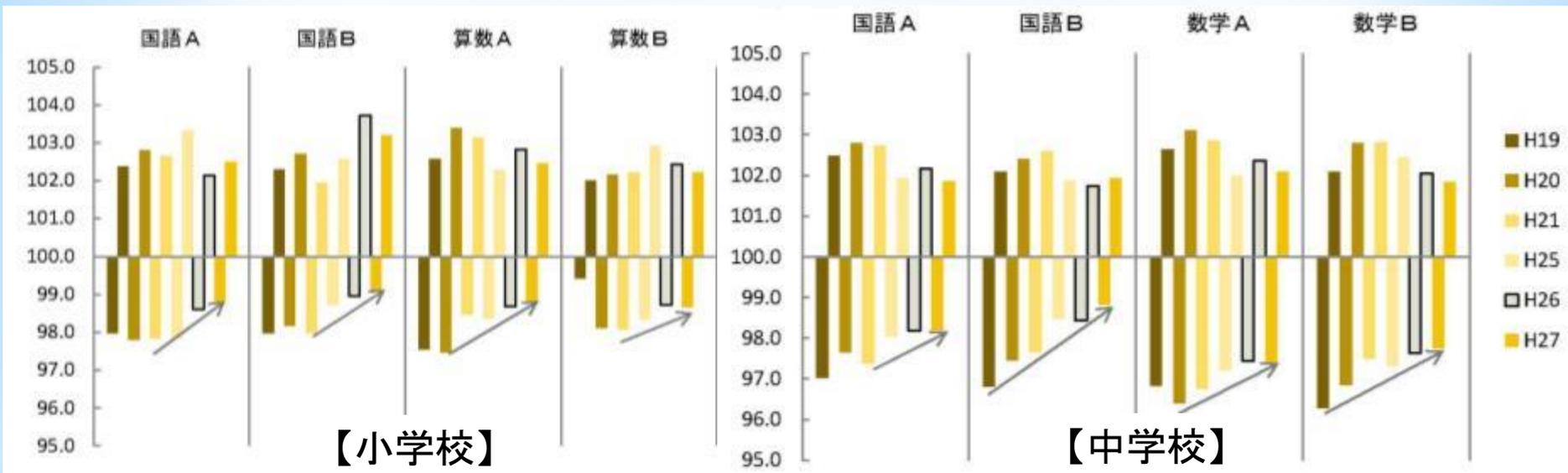


- 今回初めて、小学校においてA問題の結果が全国平均を下回った。
- 全国平均との相対的な比較では、奈良県の子どもたちの学力は年々低下傾向にある。

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

文部科学省の平成27年度全国学力・学習状況調査の結果分析では…

平均正答数（公立）が高い3都道府県と低い3都道府県の標準化得点（※）の平均を算出し、経年比較



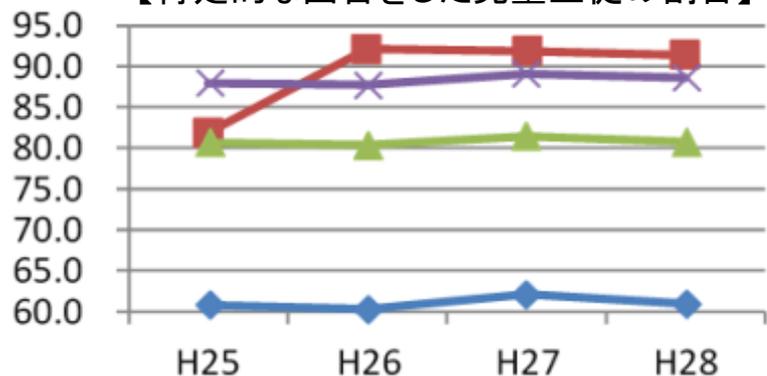
※標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそのように標準化した得点

「引き続き、**下位県の成績が全国平均に近づく**状況が見られ、**学力の底上げ**が図られている」としている。

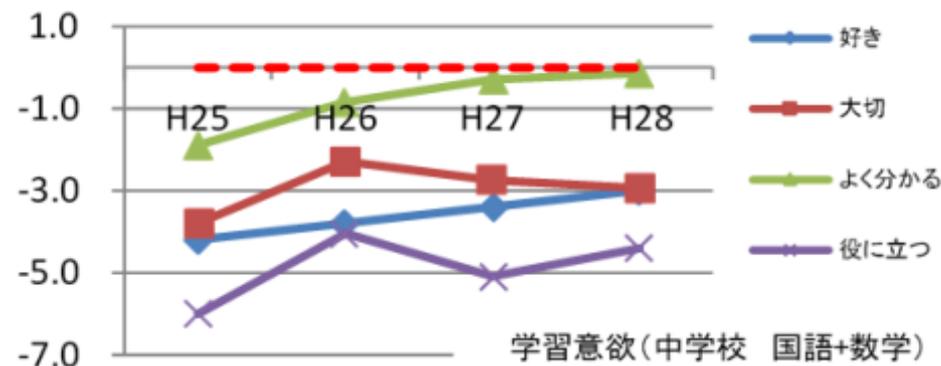
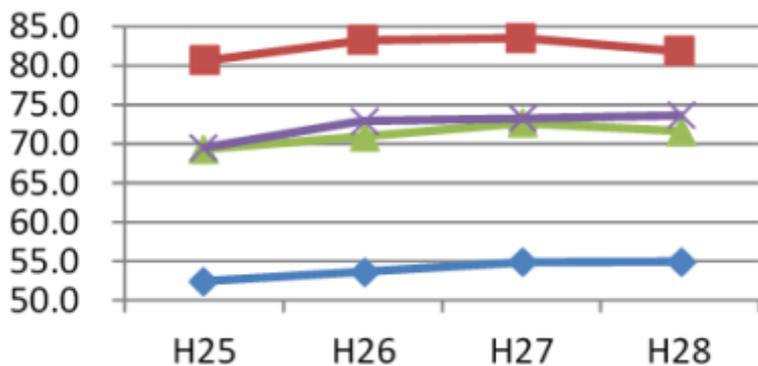
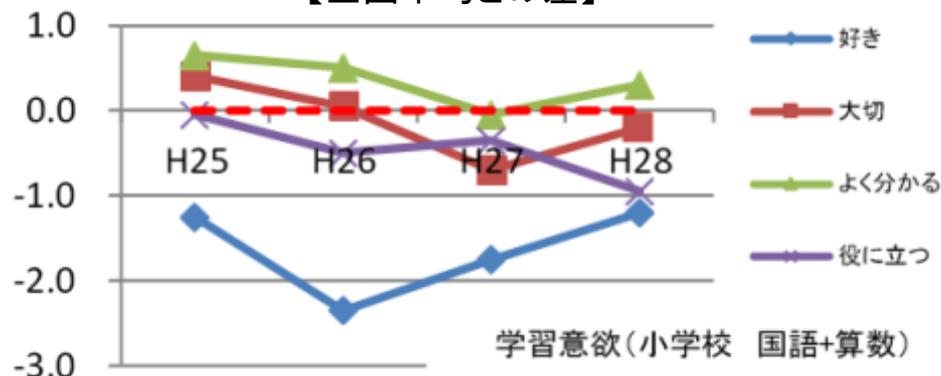
2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(1) 全国学力・学習状況調査 ② 児童生徒質問紙調査(学習意欲)

【肯定的な回答をした児童生徒の割合】



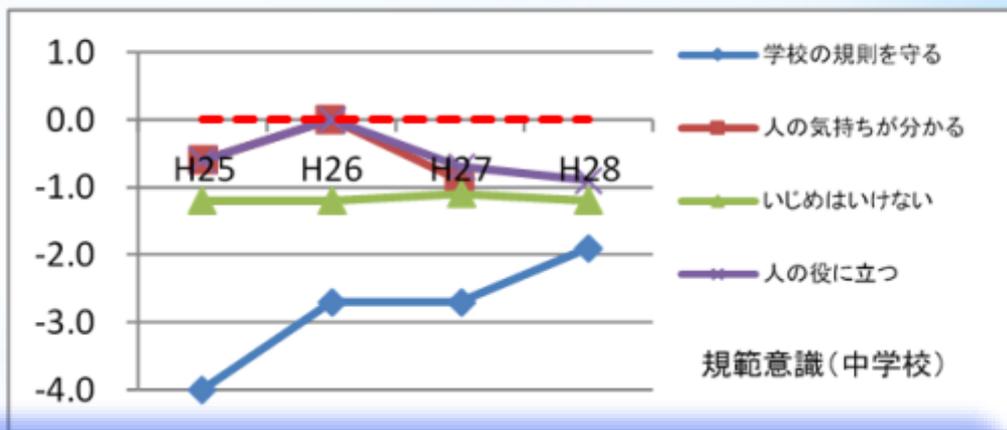
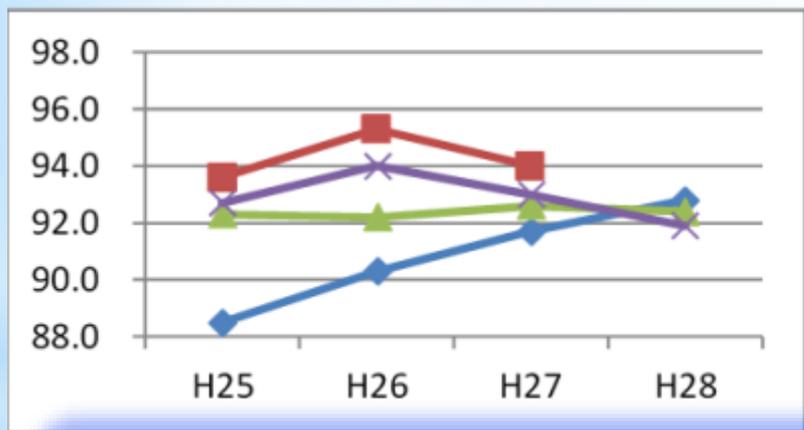
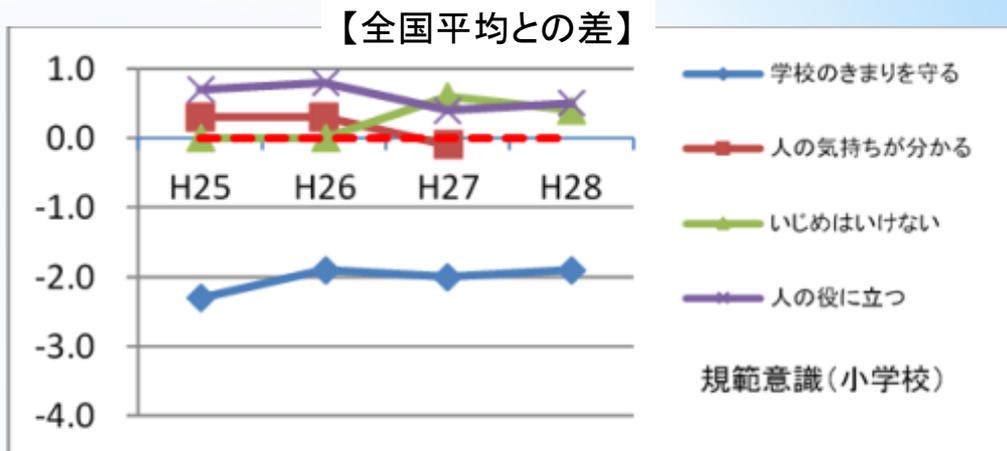
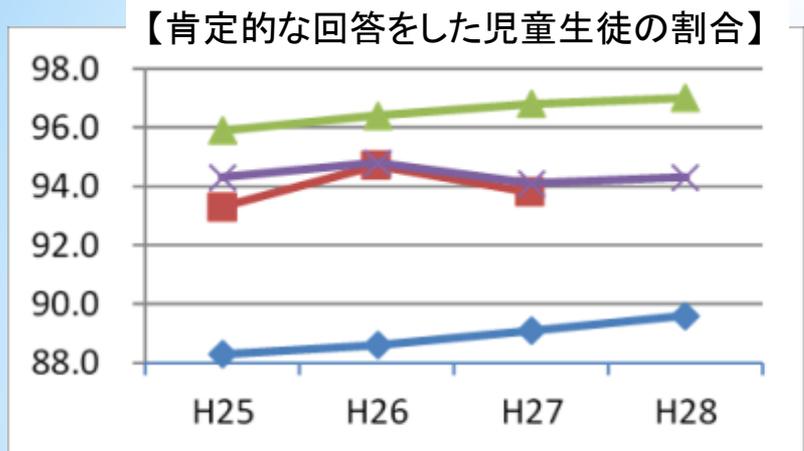
【全国平均との差】



- 学習意欲に関して、**中学校の方が全国平均との差が顕著**である。
- 「**国語や算数・数学が好き**」な児童は約60%、生徒は約50%しかおらず、**依然として課題**である。

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(1) 全国学力・学習状況調査 ② 児童生徒質問紙調査(規範意識)

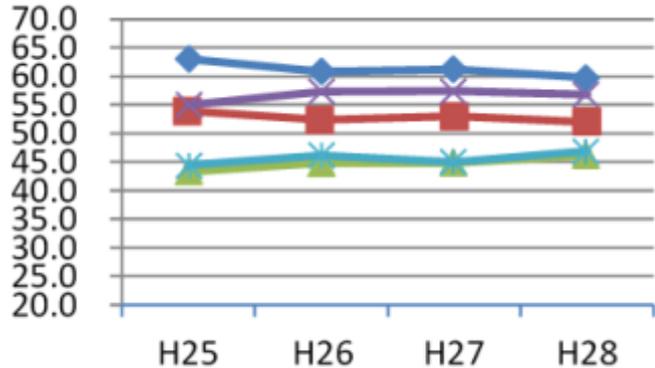


- **規範意識**については、ほぼ全国平均並みであるが、中学校がやや低い傾向にある。
- 「**学校のきまり(規則)を守る**」の項目について、全国平均との差が大きいですが、**改善傾向**が見られる。

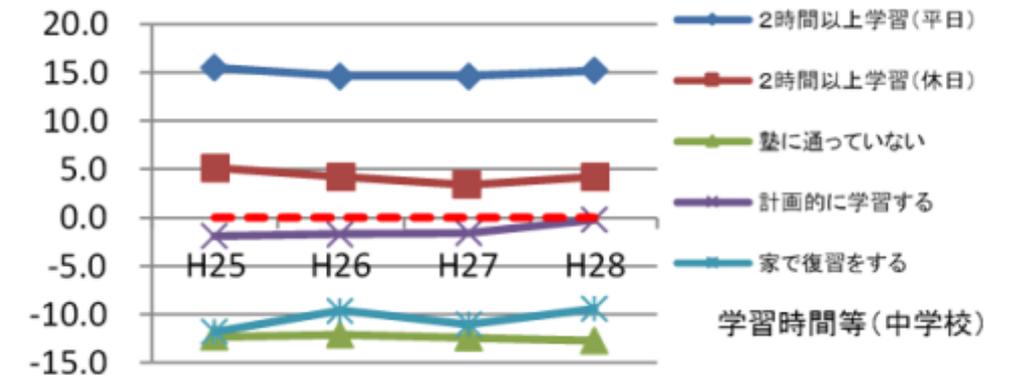
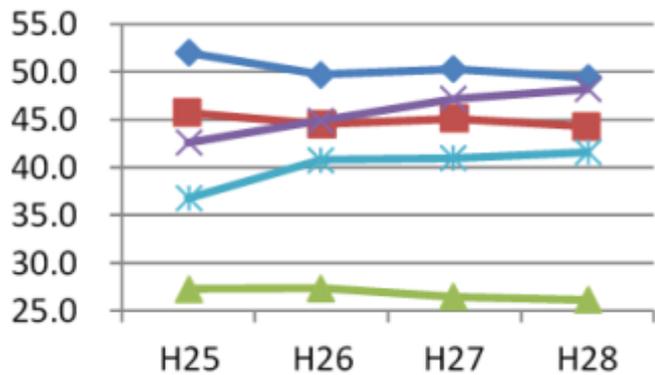
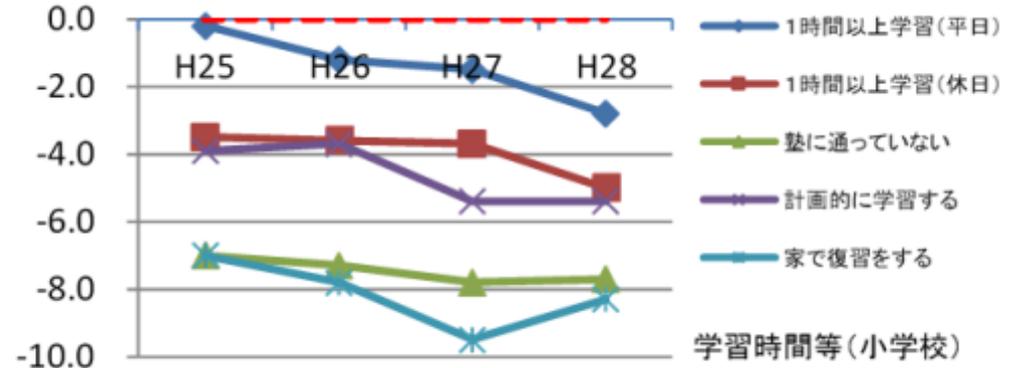
2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(1) 全国学力・学習状況調査 ② 児童生徒質問紙調査(学習時間等)

【肯定的な回答をした児童生徒の割合】



【全国平均との差】

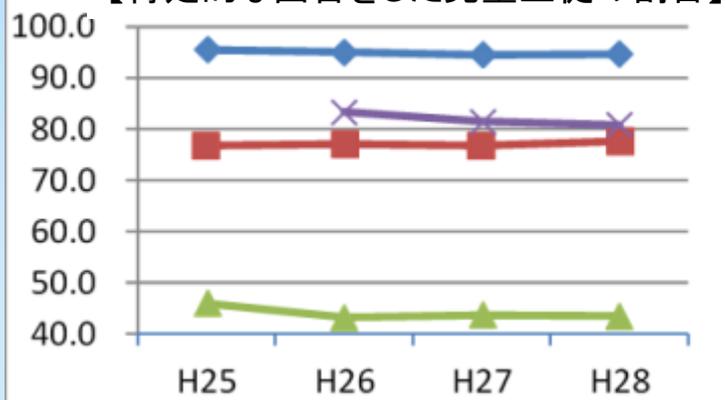


- 「家で、学校の授業の復習をしている」と答えた児童生徒は40%前後であり、全国平均との差が顕著である。

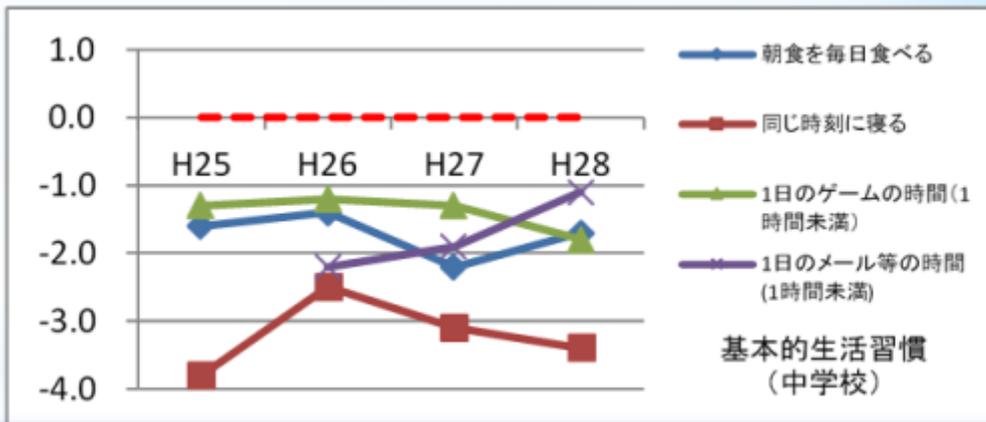
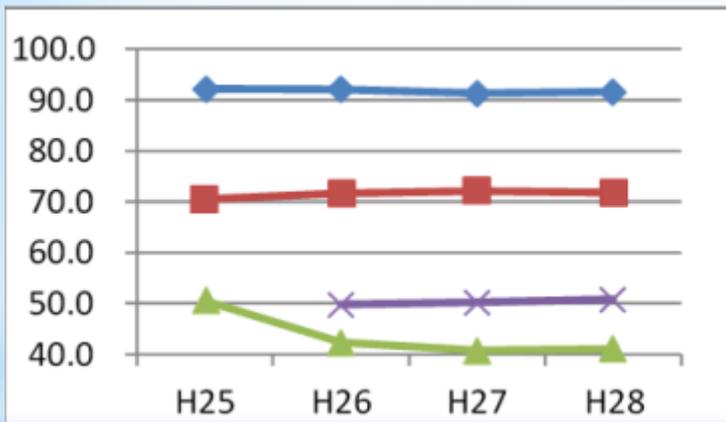
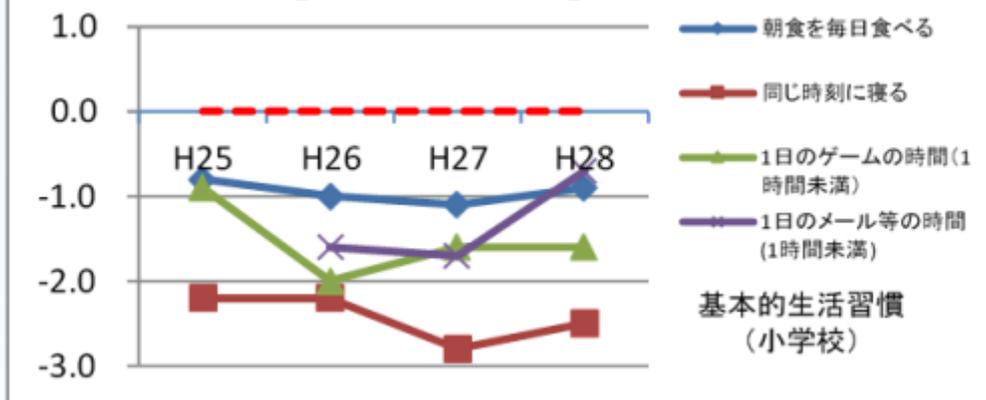
2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(1) 全国学力・学習状況調査 ②児童生徒質問紙調査(基本的生活習慣)

【肯定的な回答をした児童生徒の割合】



【全国平均との差】

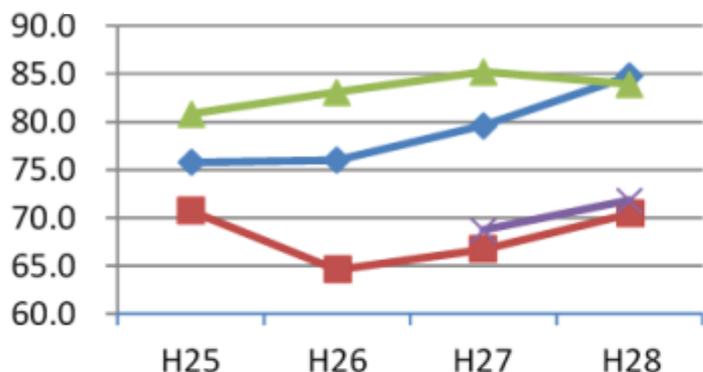


- 基本的生活習慣について、全国平均より1～2ポイント程度低い状態が続いている。特に「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目については、**全国平均との差がやや大きい**。
- 「朝食を毎日食べていない」児童が約5%、生徒が約10%存在する。

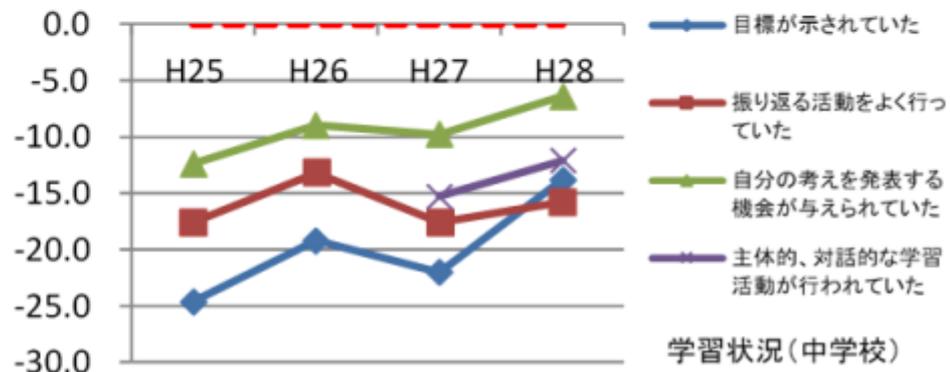
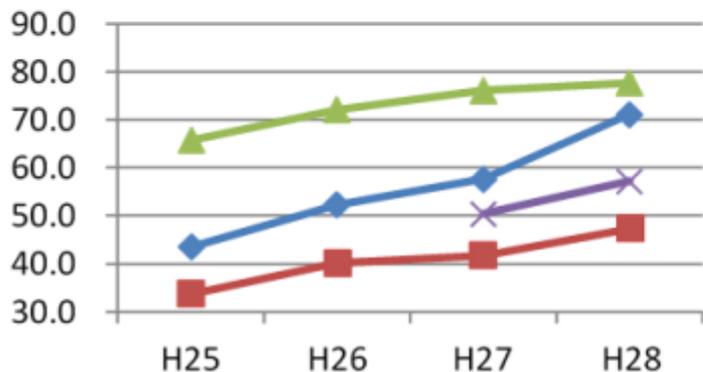
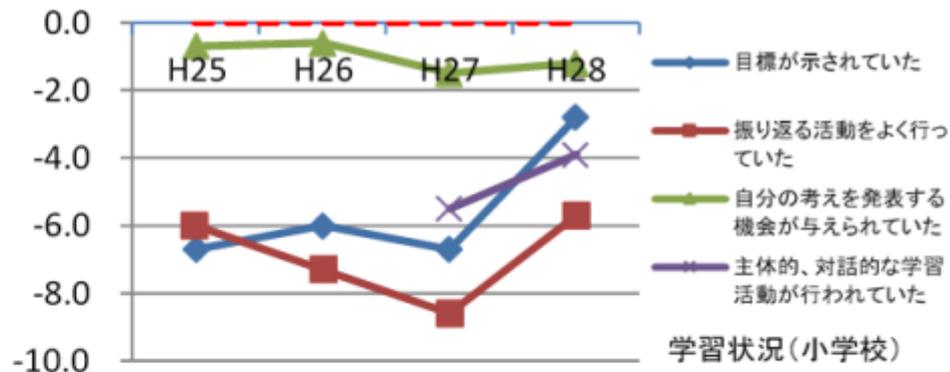
2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(1) 全国学力・学習状況調査 ② 児童生徒質問紙調査(学習状況等)

【肯定的な回答をした児童生徒の割合】



【全国平均との差】



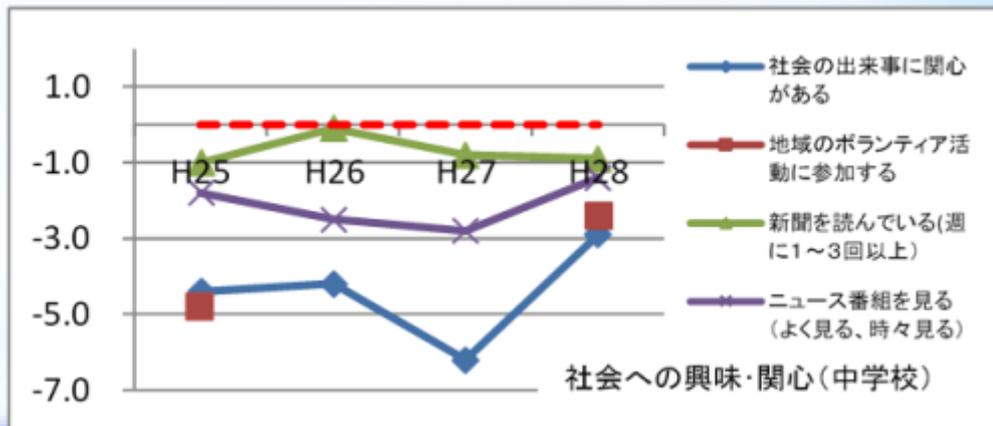
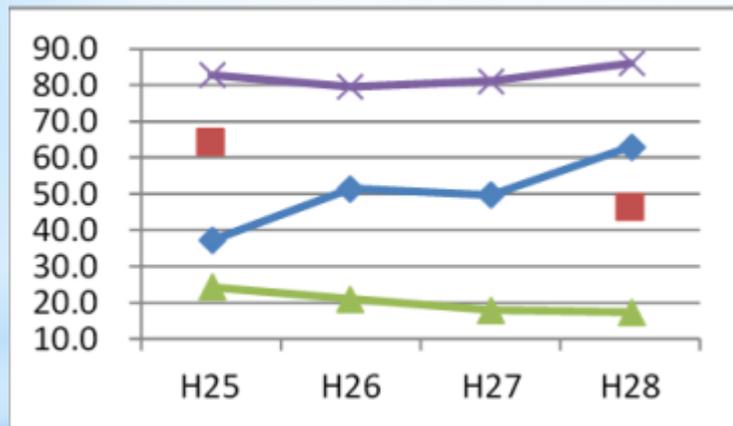
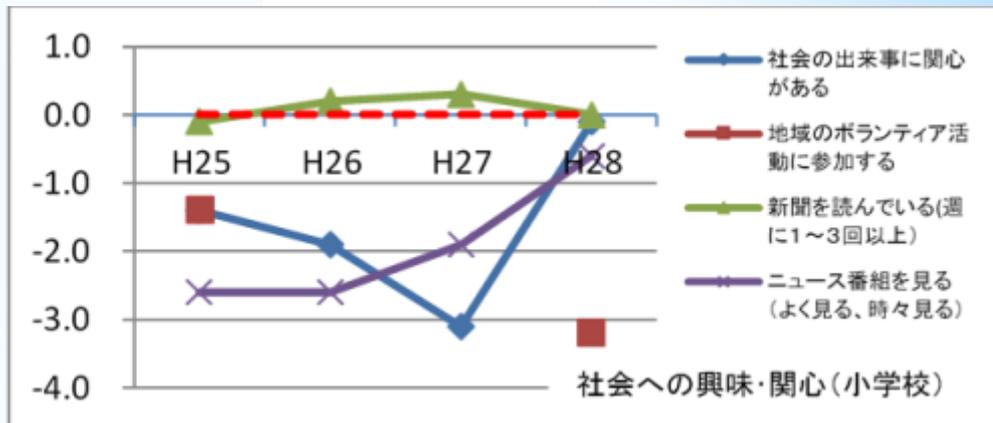
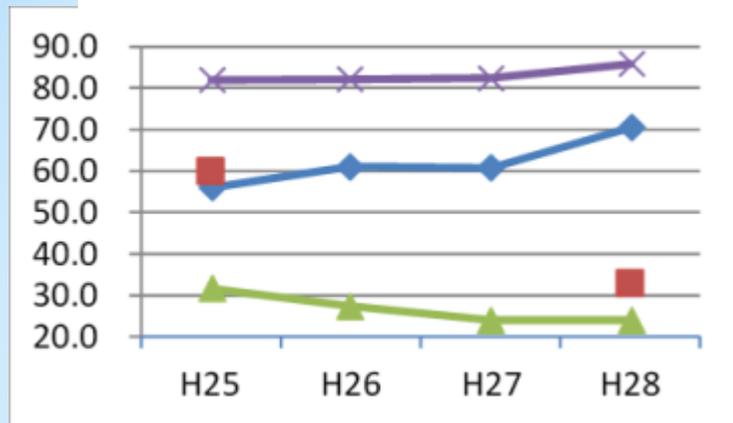
- 学習状況（指導状況）等に関して、**全国平均との差が特に大きい**が年々改善する傾向が見られる。
- 「授業のはじめに**目標（めあて・ねらい）**が示されていたと思いますか」の項目で**改善が顕著**に見られる。

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(1) 全国学力・学習状況調査 ② 児童生徒質問紙調査(社会に対する興味・関心)

【肯定的な回答をした児童生徒の割合】

【全国平均との差】



○「テレビのニュース番組やインターネットのニュース番組を見ますか」について、改善の傾向が見られ、全国平均に近づきつつあり、子どもの社会に対する興味・関心が高まる傾向が見られる。

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(2) 奈良県学力・学習状況調査

(平均正答率 (%))

		国 語			算 数・数 学		
		教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
小学校	平成27年度	60.7	64.5	44.1	72.9	79.7	47.7
	平成28年度	70.0	70.9	66.2	73.5	80.2	48.7
中学校	平成27年度	68.1	69.4	63.7	71.6	75.4	57.7
	平成28年度	66.9	68.8	60.1	74.0	75.9	66.9

国 語

- 書く力**に課題が見られる。(小学校)
- 書く力について、自分の立場を明確にして書くことはできているが、自分の体験を踏まえて自分がとった立場の理由を書くことに課題が見られる。
(中学校)

算数・数学

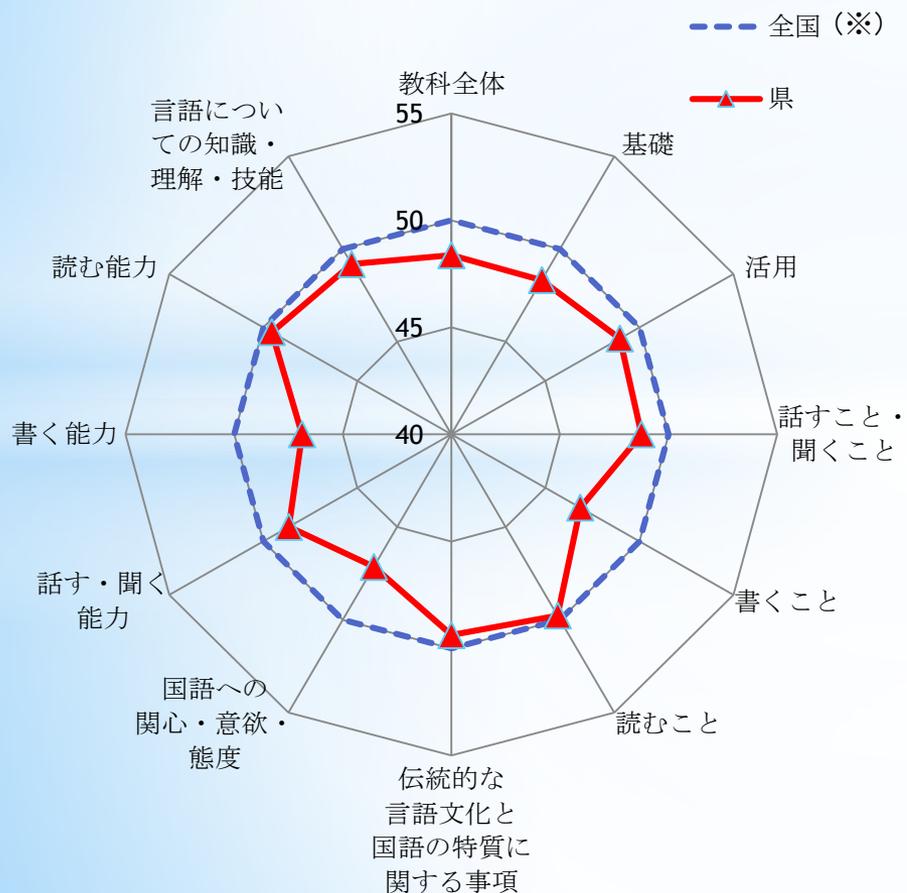
- 数と計算**、**数量関係**の領域に課題が見られる。(小学校)
- 小学校と比較して、基礎と活用の正答率に大きな差は見られない。また、数学的表現を用いて説明することや分数の概念の理解に課題が見られる。
(中学校)

2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

(2) 奈良県学力・学習状況調査

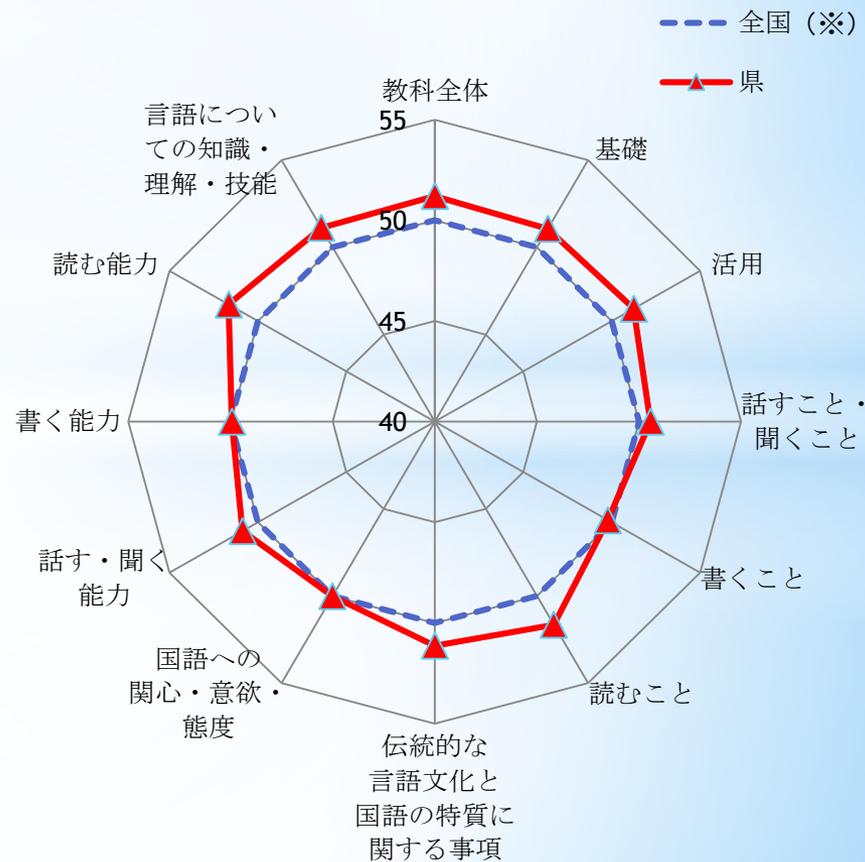
●カテゴリー別の調査結果(国語)

小学校第4学年



(※) 全国の値は、推定値

中学校第1学年

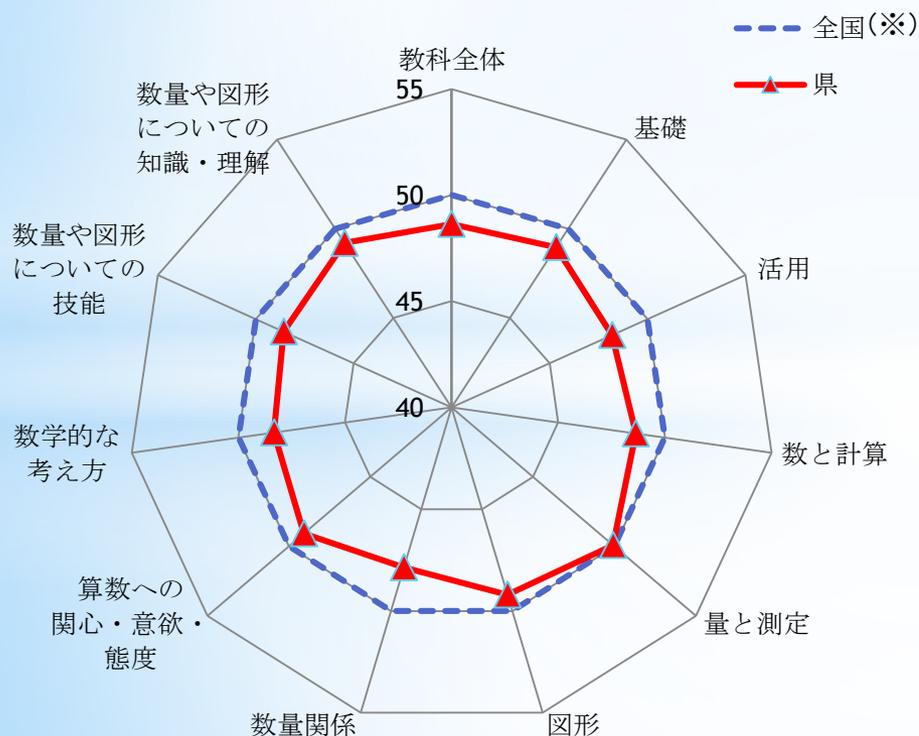


2. 奈良県の調査結果 ～何ができて、何ができないのか～

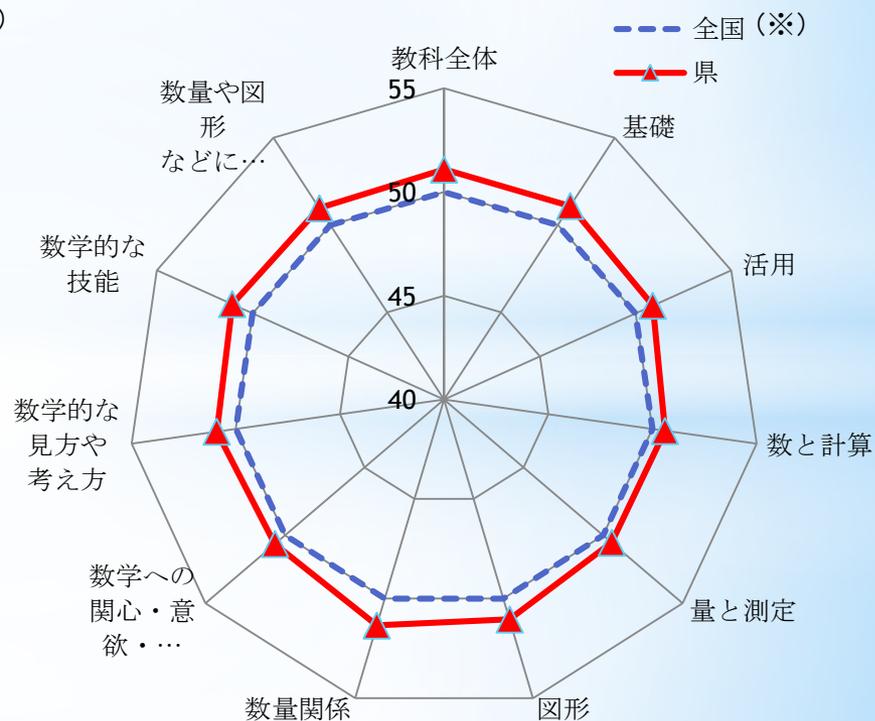
(2) 奈良県学力・学習状況調査

●カテゴリー別の調査結果(算数・数学)

小学校第4学年



中学校第1学年

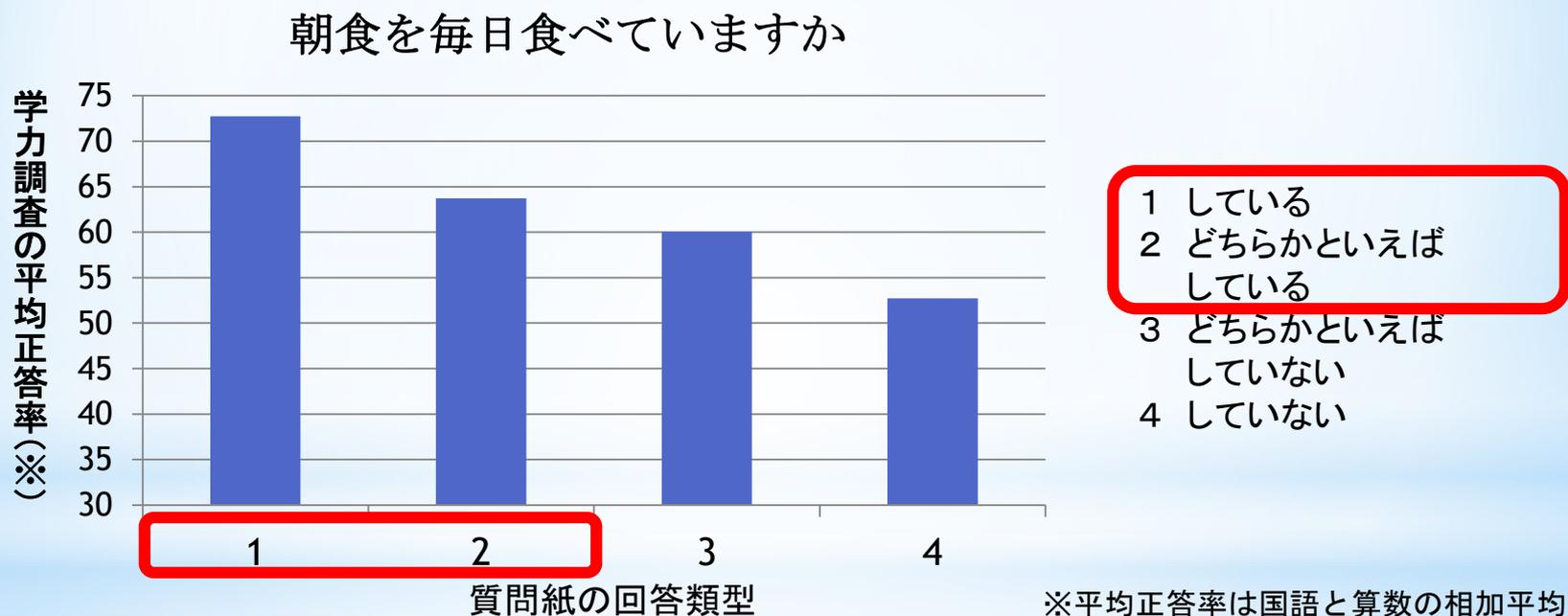


(※) 全国の値は、推定値

(2) 奈良県学力・学習状況調査

● 児童生徒質問紙調査と学力とのクロス集計結果

下のグラフでは、質問紙調査において、「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた子どもほど、学力調査の平均正答率が高い。



このように児童生徒質問紙調査と学力調査の平均正答率との間に、関係が見られたものを紹介する。

(2) 奈良県学力・学習状況調査

児童生徒質問紙調査と学力との間に関係が見られたもの

○学習意欲や学習状況に関すること

- ・勉強は大切だと思う。
- ・授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・宿題はきちんとしている。
- ・家で、学校の授業の復習をしている。
- ・小学校では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
- ・小学校では、授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。

○規範意識

- ・学校のきまりを守っている。
- ・友達との約束を守っている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけない。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
- ・人の気持ちが分かる人間になりたい。

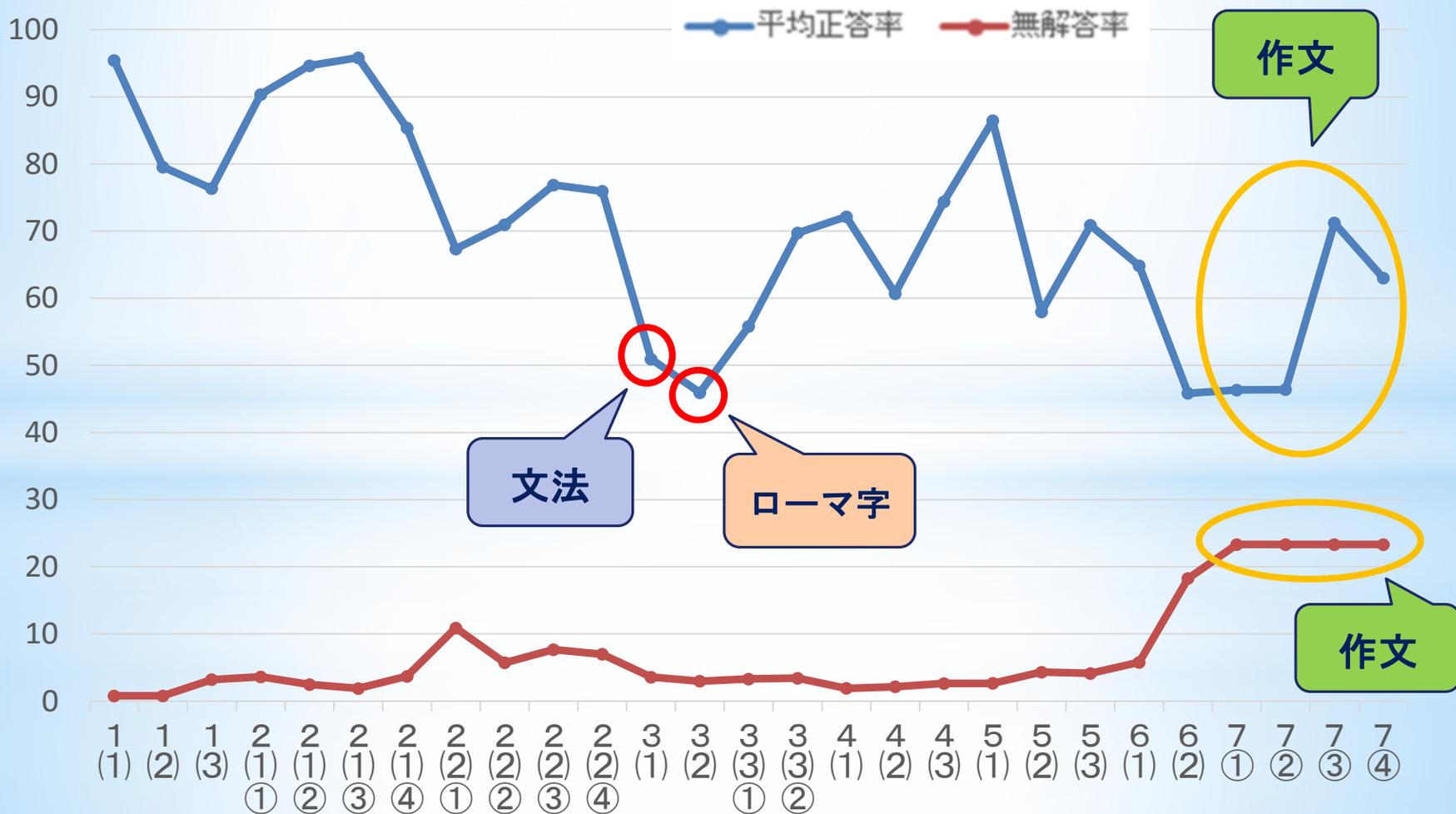
○基本的な生活習慣

- ・朝食を毎日食べている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。

3. 調査結果を生かした指導改善 ~できなかったことを、できるようにするために~

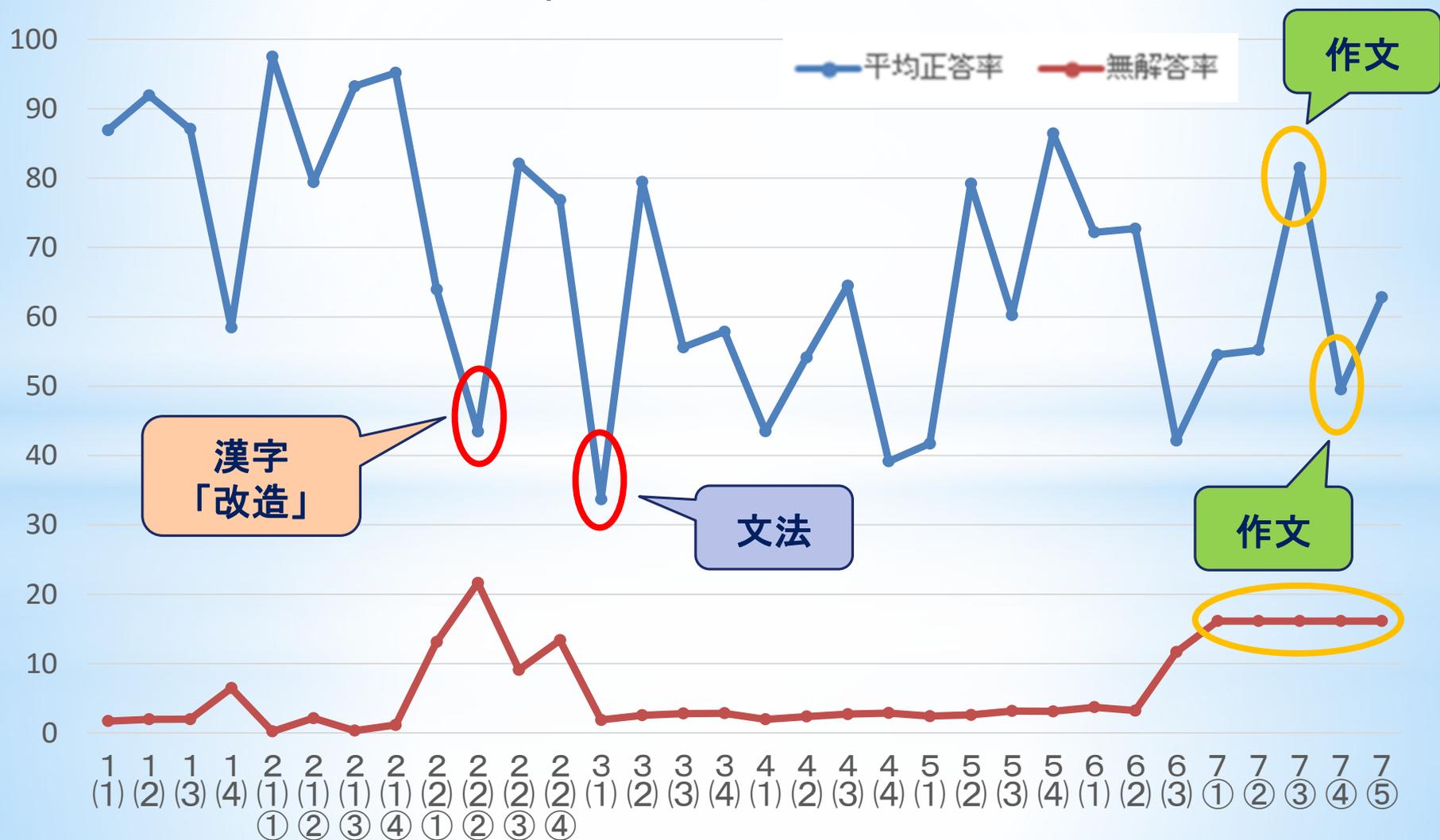
奈良県学力・学習状況調査の結果概要

小学校4年国語 平均正答率と無解答率



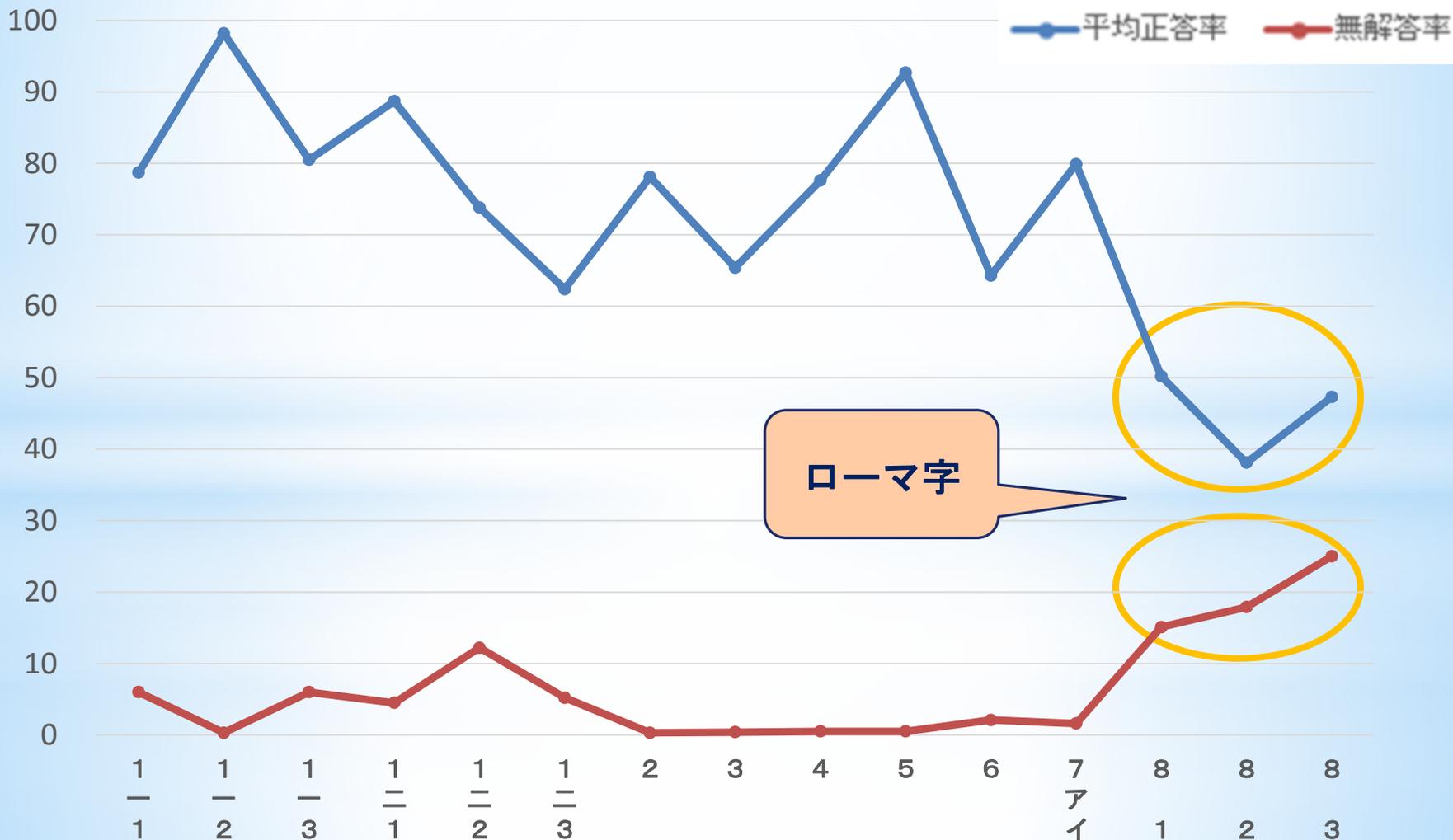
奈良県学力・学習状況調査の結果概要

中学校 1 年国語 平均正答率と無解答率



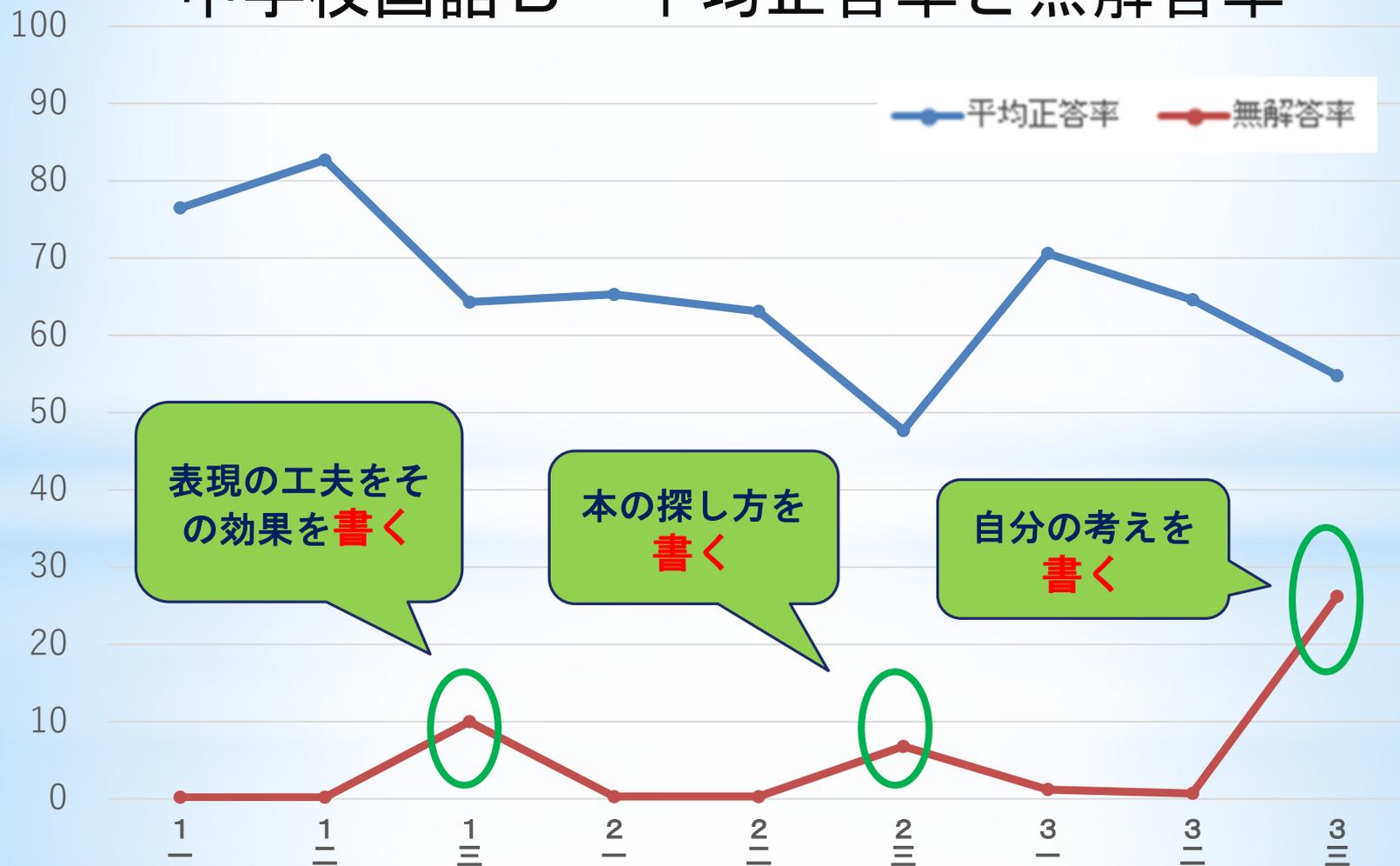
全国学力・学習状況調査の結果概要

小学校国語 A 平均正答率と無解答率



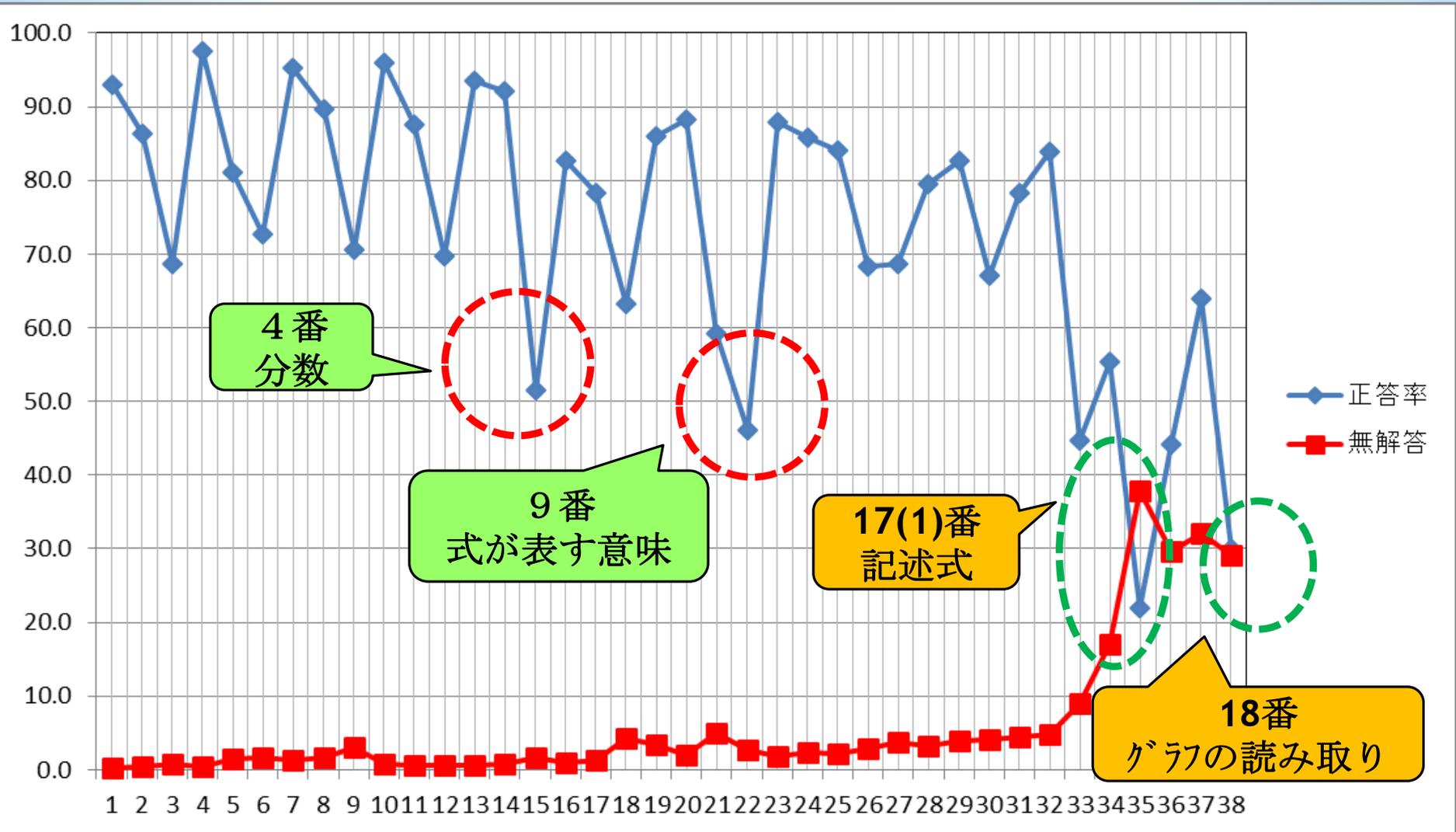
全国学力・学習状況調査の結果概要

中学校国語B 平均正答率と無解答率



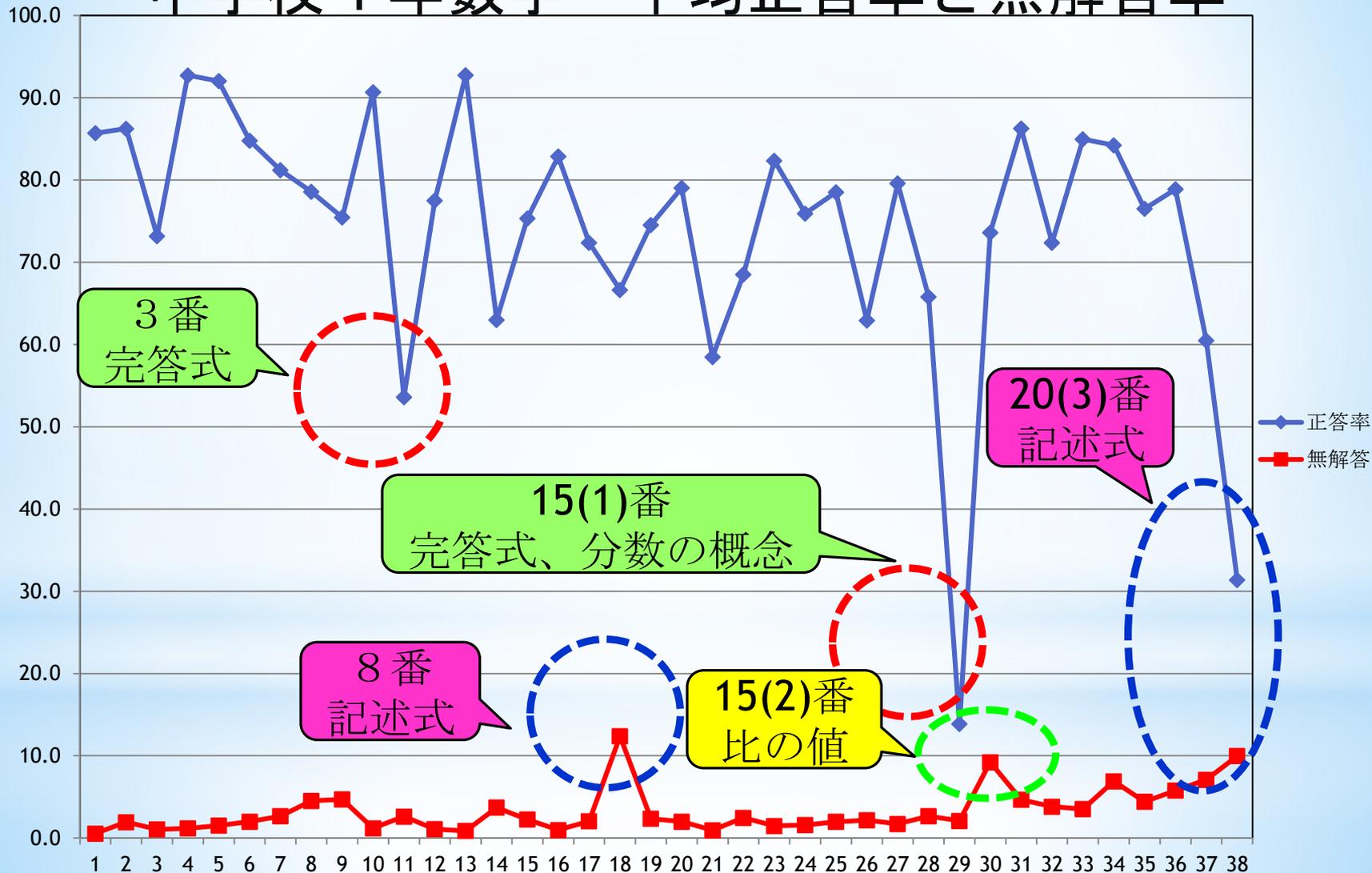
奈良県学力・学習状況調査の結果概要

小学校4年算数 平均正答率と無解答率



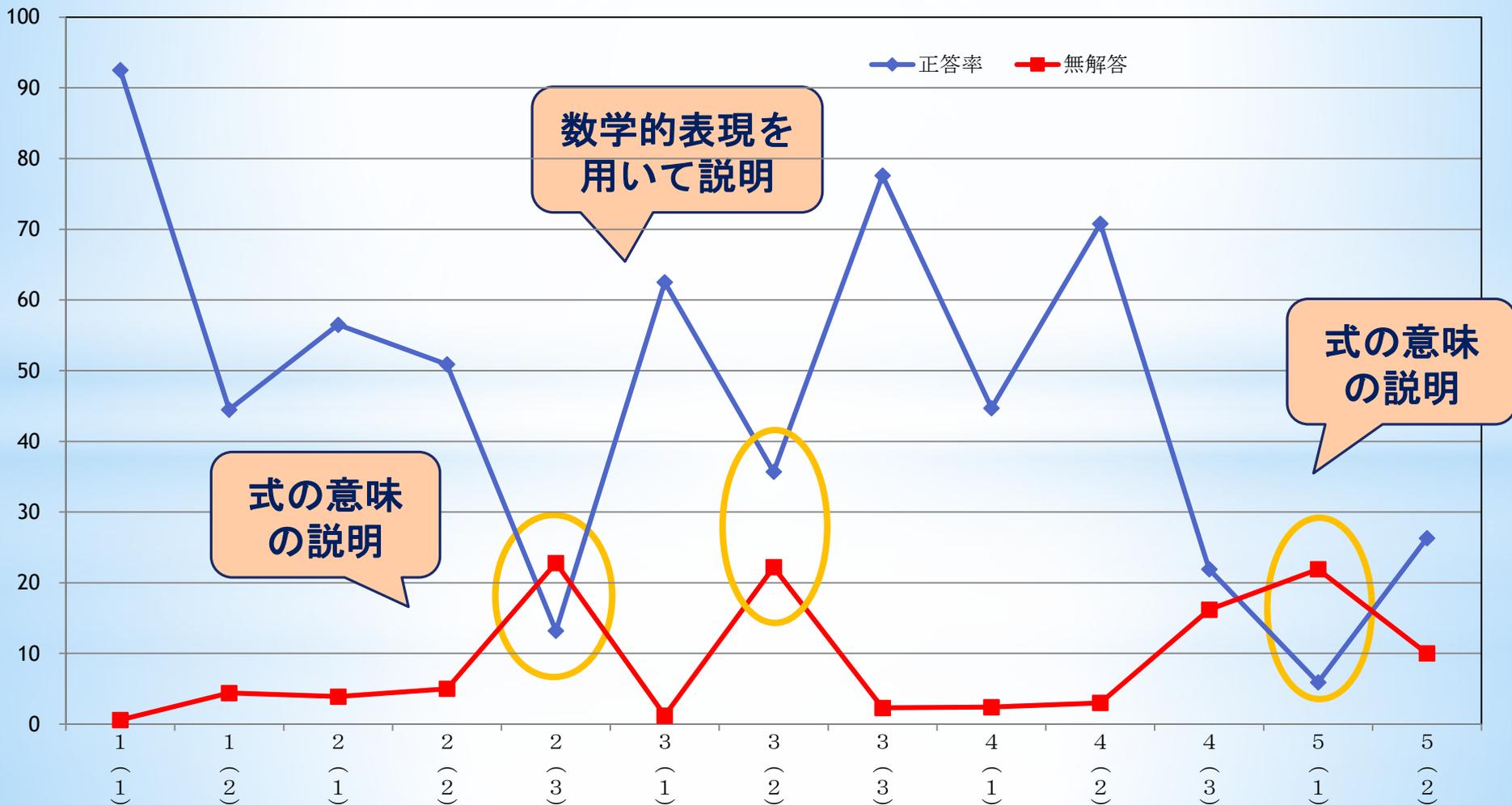
奈良県学力・学習状況調査の結果概要

中学校 1 年数学 平均正答率と無解答率



全国学力・学習状況調査の結果概要

小学校算数B 平均正答率と無解答率



全国学力・学習状況調査の結果概要

中学校数学B 平均正答率と無解答率



市町村教育委員会から各学校に働きかけてもらいたいこと

1 実践資料や実践例の提示

- 国立教育政策研究所からのDVDの配布
- 県教委作成DVDやWebページ（まなびー奈良）の活用促進
- 他校の実践例の紹介

2 調査問題の活用の推進

- 調査問題の趣旨を踏まえた授業（授業アイデア例を参考に）
- 単元の最後に調査問題に取り組ませる方法

4. 教育委員会や先生方にお願いしたいこと

教育委員会や先生方にお願いしたいこと

(1) 全国学力・学習状況調査を通して、**今の子どもたちにどんな学力が求められているか**の把握に努めること。

今の子どもに求められる学力は、我々が子どもの時代に求められてきた学力から変化している。調査問題が特殊な問題だと捉えることなく、**調査問題を通して子どもにどのような力が求められているか**ということについて、**学校全体での把握**に努めること。

例えば...

(2) 学力調査の内容や結果を参考に、**普段の授業の指導改善に努める**こと。

調査問題や調査結果の分析を通して、普段の**授業が単に知識や技能の伝達だけに留まらず、子どもたちの実生活の様々な場面に活用できる力を育み、子どもの学習意欲につながるような場となるように**、全ての教科等において改善に努めること。

例えば...

4. 教育委員会や先生方をお願いしたいこと

生徒質問紙で全国平均との差が10ポイント以上あった項目	H27	H28	前年との差
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	-15.1	-15.6	-0.5
1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	-17.6	-14.7	2.9
1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	-15.3	-12.1	3.2
1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか		-10.6	
1, 2年生のときに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	-22.0	-13.8	8.2
1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	-17.6	-15.8	1.8
1, 2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	-25.8	-22.4	3.4
1, 2年生のときに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか		-10.9	
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	-15.9	-13.9	2.0
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	-10.6	-10.2	0.4

(3)学力調査においては、**子どもが力を十分に発揮し、子どもの正確な学力が測れるように指導すること。**

- 事前に子どもたちや保護者に調査の趣旨を説明し、**真剣に取り組むよう指導**すること。
- 学力調査において、子どもが力を十分に発揮できるよう、教員は**子どもの学習状況の把握**に努めること。

「全国学力・学習状況調査 調査マニュアル」には…

□**児童(生徒)が 解答(回答)欄の場所を間違えずに記入しているかを確認**

し、適宜、指示してください。

□**解答を諦めているような児童(生徒)には、できるところから解答を試みるよ**

う適宜、指導してください。

★**児童(生徒)質問紙の調査中に、児童(生徒)から質問があった場合**

- 実生活、適**で、**適**答えを導き出せる子どもであっても、テストで問われると、何を問われているのか**理解説明できない子どもも存在する**と考えられる。単に得点の上昇を目指すのではなく、**子どもの正確な学力を測れるようにする**という視点から、**教育課程に位置付けて、普段の授業で取り上げる単元で、関連する調査問題を使って考えさせること**などにより、**テストで問われている内容を理解できる子どもが増える**のではないかと。

4. 教育委員会や先生方をお願いしたいこと

児童質問紙で全国平均との差が5ポイント以上あった項目	H27	H28	前年との差
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	-5.4	-5.4	0.0
家で、学校の授業の復習をしていますか	-9.5	-8.3	1.2
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	-10.6	-7.8	2.8
5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	-8.6	-5.7	2.9
5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	-11.5	-7.6	3.9
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	-8.4	-6.2	2.2
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	-8.5	-6.7	1.8
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	-9.4	-9.2	0.2
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	-6.6	-5.9	0.7
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	-7.6	-6.6	1.0

(4)各教科等の授業時数が標準時数を下回ることをないように、授業時数の確保に努めること。

学校質問紙で前年度の国語、算数・数学の総授業時数が標準時数を下回ったと回答した学校数の割合(%)

		国語		算数・数学	
		H27	H28	H27	H28
小学校	全国	2.4	3.0	2.1	2.9
	奈良県	7.4	10.4	11.4	12.9
	差	-5.0	-7.4	-9.3	-10.0
中学校	全国	6.0	5.8	2.7	2.9
	奈良県	36.5	31.4	19.2	18.1
	差	-30.5	-25.6	-16.5	-15.2

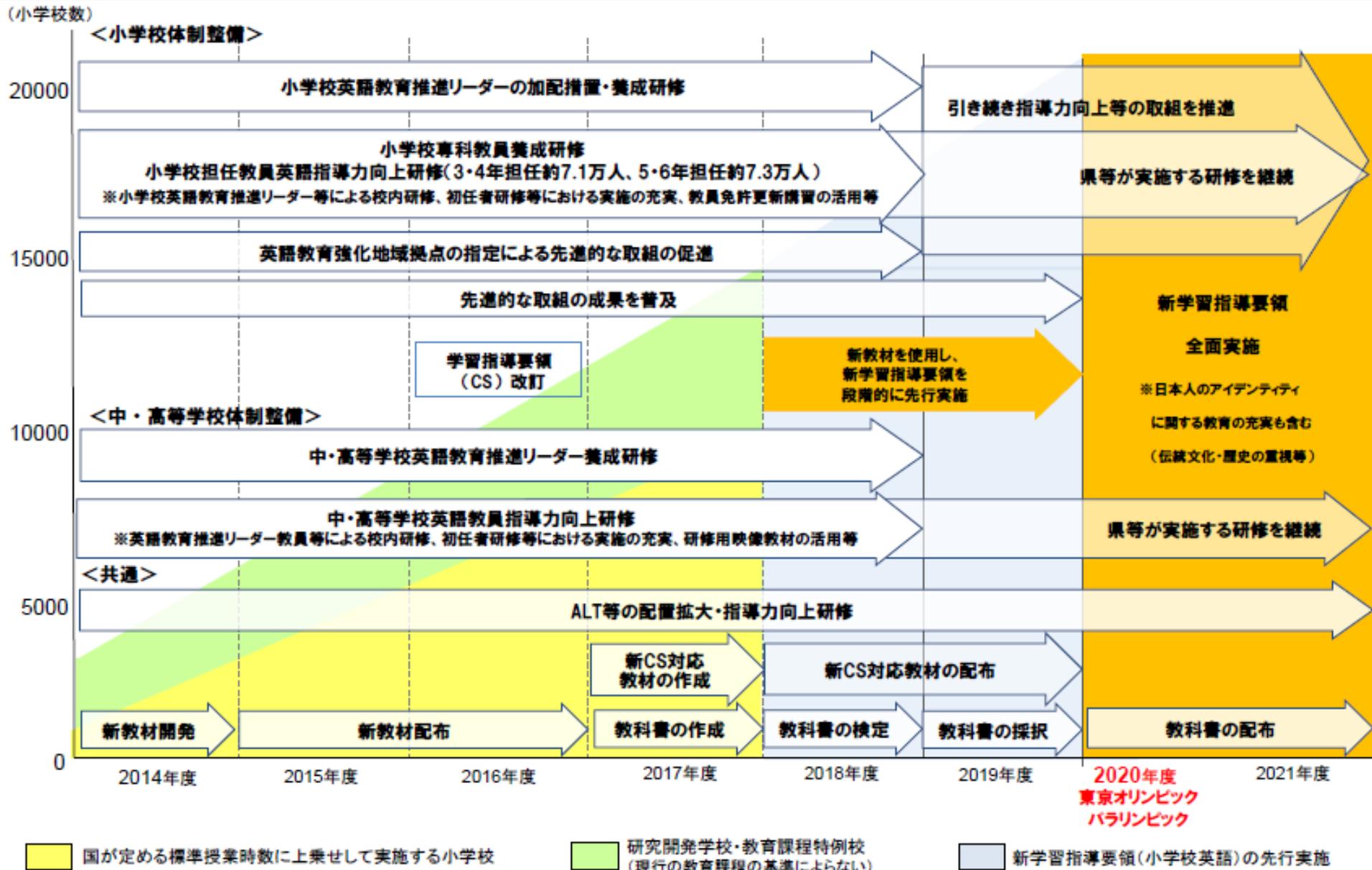


「できなかったことができる喜び」
 「分からなかったことが分かる喜び」を与える場所、それが学校の役割であり、そのような教育活動を支えるのが行政の役割です。
 子どもの「できた」「分かった」を支援する取組に共に努めましょう。

英語教育の充実に向けて

1. 英語指導パワーアップ講座について
2. 英語教育実施状況調査と本県の英語教育の課題について
3. 英語教育改革の方向性について

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール



【小学校高学年】 **教科型** **年間70単位時間**

単元目標の例：馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする。

○「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成も含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。

○ **学級担任**が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用する。

教科として系統的に学ぶため、効果的な「繰り返し学習」として**モジュール学習**も活用する。

【小学校中学年】 **活動型** **年間35単位時間**

○「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の**素地**を養う。

○主に**学級担任**がALT等を一層積極的に活用した**T・T**を中心とした指導を行う。

【中学校】

単元目標の例：短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする。

○ 身近な話題についての理解や表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする。

【高等学校】

単元目標の例：ある程度の長さの新聞記事を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。

○ 授業を英語で行うことを基本とするとともに、①4技能を総合的に扱う言語活動、②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実(発表、討論・議論、交渉等)する。

「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告(概要)
小学校高学年教科としての目標イメージ

外国語活動

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

小高学年教科

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

中学校

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告(概要)

小学校高学年教科化における4技能(「聞く」「話す」「読む」「書く」)の目標イメージ

(1) 身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。

(2) 身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

(3) アルファベットや単語に慣れ親しみ、英語を読むことに対する興味を育てる。

(4) アルファベットを書くことに慣れ親しみ、英語を書くことに対する興味を育てる。

短時間学習等の活用、柔軟なカリキュラム設定に関する考え方

文部科学省中央教育審議会 第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料

○これまでの成果・課題を踏まえつつ、教育課程全体の枠組みの状況を考慮すると、小学校高学年において年間35単位時間増となる時数を確保するためには、ICT等も活用しながら10～15分程度の短い時間を単位として繰り返し教科指導を行う短時間学習（帯学習、モジュール学習。以下「短時間学習」という。）を含めた柔軟なカリキュラム設定の在り方と必要なカリキュラム・マネジメントを検討する必要がある。

・従来は、短時間学習を授業時間外の扱いとし、授業内容との直接的な関係性を教育課程に位置付けていないことが多かったが、今後、外国語の特性を踏まえた指導内容のまとめりや教育効果を高める観点から、短時間学習を行う場合には、学習指導要領上の標準授業時数内で、その時間を年間授業時数に含め、その目標を明確にし、まとめりのある授業時間との関連性を確保した上で実施することが必要である。

・短時間学習を効果的に位置付けるため、その目的・実施のねらい、中心となる45分授業とそれを補完する短時間学習との関係性を明確にしたカリキュラムや、両者における指導の順序性などを明確にしていくことが必要である。

短時間学習等の活用、柔軟なカリキュラム設定に関する考え方

文部科学省中央教育審議会 第7回教育課程部会小学校部会「これまでの議論のとりまとめ」補足資料

- ・ 前述の全国の小・中学校における短時間学習の状況の調査結果によると、算数、国語の学力向上を目的とする計算ドリルや読書活動など、授業時数内外で様々な教科も含めた取組が行われており、実施状況は様々であるため、全ての小学校において、外国語に特化した短時間学習を一律に行うことは困難な状況にある。このため、年間70単位時間における一定の短時間学習の在り方を横並びで求めるのではなく、ある場合には45分授業を60分授業の扱いにして、その中の15分を短時間学習として位置付けることや、また別の場合には外国語の短時間学習を2週間に3回程度実施する、さらに別の場合には夏季、冬季の長期休業期間において言語活動を行うなど、地域や各校の実情に応じた幅のある柔軟なカリキュラムの設定が必要であると考えられる。
- ・ 外国語教育の特質に応じ、まとまった時間を活用して言語活動を行うことなどが効果的な場合には、夏季・冬季休業や、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができるような方向性を検討し、各校の取組に柔軟な対応が可能となるようにすることが必要である。

(例) 短時間学習や柔軟なカリキュラム設定等のイメージ

- ・ 45分授業との関係を明確にした一定の効果が得られる15分程度の「繰り返し学習」などの短時間学習
45分+15分などの組合せにより、深みのあるコミュニケーション活動の設定などの組合せも可能となる指導
- ・ イングリッシュ・キャンプ、補習などの夏季、冬季の長期休業期間における活用等

1 「特別の教科 道徳」の学習評価に関する基本的な考え方について

様式2（指導に関する記録）

小学校児童指導要録（参考様式）

児童氏名		学校名		区分	学年	1	2	3	4	5	6
				学 級							
				整理番号							
各教科の学習の記録						特別の教科 道徳					
I 観点別学習状況						学習状況及び道徳性に係る成長の様子					
教科	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6			
国語	国語への関心・意欲・態度	1									
	話す・聞く能力										
	書く能力										
算数	読む能力	3									
	言語についての知識・理解・技能										
社会	社会的現象への関心・意欲・態度	4									
	社会的な思考・判断・表現										
	観察・資料活用の技能										
	社会的現象についての知識・理解										
理科	算数への関心・意欲・態度	5									
	算学的な考え方										
	数量や図形についての技能										
外国語活動	数量や図形についての知識・理解	6									
	外国語活動の記録		観 点		学 年		評 価				
	外国語への関心・意欲・態度		3	5	6						
	外国語への慣れ親しみ										
総合的な学習の時間	科学的な思考・表現	6									
	観察・実験の技能										
	自然現象についての知識・理解										
生活	外国語に関する気付き	6									
	生活への関心・意欲・態度										
	活動や体験についての思考・表現										
音楽	身近な環境や自分についての気付き	6									
	音楽への関心・意欲・態度										
	音楽表現の創意工夫										
図画工作	音楽表現の技能	3									
	鑑賞の能力										
	造形への関心・意欲・態度										
家庭	発想や構想の能力	4									
	創造的な技能										
	鑑賞の能力										
体育	家庭生活への関心・意欲・態度	5									
	生活を創意工夫する能力										
	生活の技能										
特別活動	家庭生活についての知識・理解	6									
	運動や健康・安全への関心・意欲・態度										
	運動や健康・安全についての思考・判断										
学年	運動や健康・安全についての知識・理解	6									
	特別活動の記録		内 容		観 点		学 年		評 価		
	健康・安全についての知識・理解										
II 評 定						特別活動の記録					
学年	教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	児童会活動	
3										クラブ活動	
4										学校行事	
5											
6											

学習活動における児童（生徒）の「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を、観点別評価ではなく個人内評価として丁寧に見取り、記述で表現することが適切である。

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

小（中）学校学習指導要領

第3章 特別の教科 道徳 第3の4

2 多様な指導方法の確立や評価の工夫・改善について

多様な指導方法の確立や評価の工夫・改善に向けて積極的に取り組むことが求められること。

3 小学校、中学校の指導要録について

道徳科については、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、特に顕著と認められる具体的な状況等について記述による評価を行うこと。

4 入学者選抜における取扱について

調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。

5 発達障害等のある児童生徒への必要な配慮について

- (1) 道徳科の指導に当たって求められる配慮
- (2) 評価を行うに当たって求められる配慮

道徳科

【学習】

道徳科の学習活動を支える要素



道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習

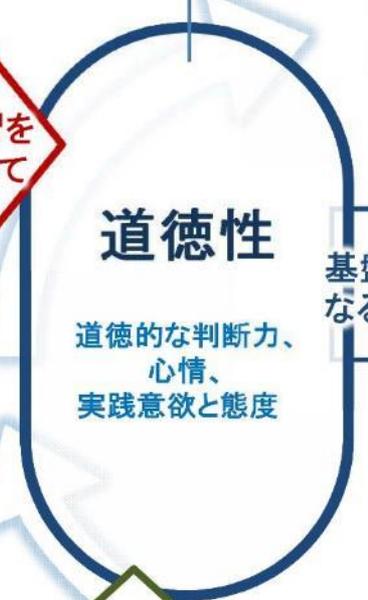
【評価】

積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の記録」

観点別評価や他の児童生徒との比較ではなく、個人内評価として見取ったことを記述により表現する評価。個々の内容項目ごとではなく、大きくなまともりを踏まえ、道徳科の学習を通じて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めようとしているかどうか注目する。
(H28.7.29初等中等教育局長通知)

道徳教育・道徳科で育てることを目指す

資質・能力



自立した人間として他者と共によりよく生きる実践（行為・表現など）

各教科等

【学習】

各教科等の目標に基づく固有の指導

各教科等で育成する資質・能力「学びに向かう力、人間性等」

【評価】

「学びに向かう力、人間性等」に係る個人内評価

道徳性の育成は、「学びに向かう力・人間性」に深く関わる。「学びに向かう力・人間性」には、各教科等における観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれない部分がある。こうした部分については、個人内評価（個人の良い点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る。
(H28.8.1「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)」教育課程企画特別部会)

学校生活全体において具体的な行動として見られる部分

児童生徒の具体的な行動に関する「行動の記録」

各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童生徒の具体的な行動について記載する。

※ 本図は道徳性の育成に関わる学習（活動）に着目して整理したものであり、この他にも、道徳性が養われる過程には様々な整理の仕方があると考えられる。（例えば、実践を通して道徳性が養われることもある。）

平成28年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査より

中学校

小学校

— 奈良県 — 全国 (100)

学校のきまりを守っている

道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしていたと思う

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

人の役に立つ人間になりたいと思う

人の役に立つ人間になりたいと思う

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしていたと思う

学校の規則を守っている

